随筆リレー

424

高橋弘明さん
松沼町

こどもそだち

私は教師をしていましたが、子どもたちを切り捨てる教育に直面し退職しました。そして、「こどもそだちができる学校」とは何かと考え、自分で学校を作れないかと考えました。

ところが設立には多くの資金が必要です。とても当時の私にはできませんでした。しかし実践を示すのならNPO法人でも可能と発想を転換し、まずは学習支援や、学童保育を行う学園を創立しました。

何もない学園ですが、楽しいことは笑顔を作り、驚きは興味をそそり、感動は更なる発見を導きます。子どもたちがいるその場所が学びのフィールドに、笑顔があるから子どもたちの発見がある場所になると思います。「子どもにとって必要なこと」「必要とされることは何か」、またどうやって子どもたちに〝得〟させることができるか、活動を通して検証し、「新しい学校」を作るときの礎にしたいと思っています。

新しい学校を作りたいと考えてゼロからさまざまな取り組みを行っています。既存の概念にとらわれずにまっさらな状態で子どもの反応を見て実施方法や内容を決めていきたいのです。子どもにとって選択できる学校の一つに、常に「子どもの望む教育が保証されている」学校でありたい。

まだまだ多くの人の助言や支援を必要とする未熟な状態ですが、子どもたちの笑顔が憂鬱（ゆううつ）な風を吹き払い、今の日本の現状に一石投じるような実践をしていきたいと考えています。（次は高橋さんが選んだ、赤生田町長谷川和江さんにリレー）